

東成区

ごみゼロ



リーダー

ニュース

第13号

平成29年12月発行

平成29年度廃棄物減量等推進員施設見学会を開催 地球環境保全と循環型社会の環境対策に学ぶ



見学会参加の廃棄物減量等推進員の皆さん（三重中央開発）

平成29年11月21日（火）、三重県伊賀市の三重中央開発株式会社・三重リサイクルセンターにおいて、東成区・生野区連合代表の廃棄物減量等推進員を対象にした施設見学会を開催しました。

見学会に際して川野所長から「推進員の皆さんには、ごみがどのような過程を通じてリサイクルされていくのかなどについて

見学して頂き、今後の推進員活動に活用頂けるような有意義な見学会になればと考えております」とあいさつしました。

施設見学会では、リサイクルセンター所長から事業概要ならびに施設の説明があり「弊社



見学施設の説明を受ける推進員（右・リサイクルセンター所長）

は、大栄環境グループの一翼を担うものとして、年々強化される廃棄物処理法や各種リサイクル法に対応可能な施設の充実と処理時に発生する熱エネルギーの温熱利用やさらに発電など、処理と同時にエネルギーも生成し有効活用しています。同時にプラスチックリサイクル施設、コンポスト工場など、多様な再資源化施設においても資源

循環システムを構築し、高度な次元で高い再資源化を誇る事業展開を行っています」と解説され、また管理型最終処分場も有する広大な敷地があることや地球環境保全と資源循環社会の実現をめざして、環境教育活動をはじめ地域の活性化活動にも取り組んでいると話されました。見学に際しては、センターへの搬入車両や業務車両も多いことから、バス移動による車内からの事業概要・施設の特徴説明を受けました。（裏面に続く）

最先端の設備を備えたエネルギープラザ



リサイクルセンター敷地内の高台より施設を望む（一部風景）



蓄熱タンクをコンテナ方式で利用施設に供給（コンテナ全景）



埋め立て処分場の工事風景(上)・解説を受ける推進員(下)



廃棄物複合施設リサイクル施設であるエネルギープラザは、1日に636トンの処理能力を誇る焼却施設をはじめ、乾燥施設・炭化施設、また廃熱利用に4,000kWの発電システムが稼働していることが説明されました。また試験的に取り組んでいるトランスヒートコンテナについては、「廃棄物を焼却する際に出る熱を蓄熱タンクに貯め、コンテナで病院・オフィスビル・温泉施設などに広範囲に供給するもので、地域へのエネルギー供給が可能なるものである。しかしながら熱交換器を含めてシステム全体での課題もまだまだあるが引き続き事業の推進を行っていきます」と説明されました。

国内最大規模の処分場

埋め立て処分場では、「管理型最終処分場で平成27年3月に埋立面積73,542㎡、容量が面積329,000㎡の国内最大規模の第7期埋め立て処分場が竣工し、従来許可と合わせると埋め立て容量は600万トン以上となること、さらに可燃性廃棄物を高カロリーの固形燃料にするRPF製造施設は化石燃料の使用削減に寄与することや汚泥固化施設・プラスチックリサイクル施設、木材チップ製造設備、コンポスト工場センターから処理に際して出される汚水・汚泥の化学処理システムにより内部処理していることが話されました。推進員の皆さんには施設見学を通じて、廃棄物の適正な処理の重要性を改めて理解頂きました。

《編集・発行》

大阪市東部環境事業センター

大阪市生野区巽中1-1-4

TEL:06-6751-5311 FAX:06-6753-3041

<http://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/index.html>

